

一般社団法人日本家族看護学会
2024年度 第1回定時社員総会 議事録

日時:2024年6月2日(日)10:00-10:50

場所: Zoomによる開催

参加者(敬称略・順不同):

理事/社員:荒木 暁子、池田 真理、井上 玲子、相墨 生恵、浅野 みどり、荒木田 美香子、池添 志乃、
内 正子、影山 葉子、梶谷 みゆき、上別府 圭子、河原 宣子、小林 京子、佐藤 伊織、
鈴木 和子、長戸 和子、中野 綾美、奈良間 美保、新家 一輝、野間口 千香穂、濱田 裕子、
深堀 浩樹、藤井 淳子、本田 順子、山崎 あけみ、山本 真実

監事:石垣 和子

学術集会長:井上 玲子(第31回)

推薦理事:西垣 佳織

幹事:杉村 篤士、高山 充

事務局:川出

I. 開会の辞

- ・荒木理事長より、開会の挨拶があった。
- ・井上理事より社員48名のうち、社員総会開催までに委任状の提出者16名、議決権行使者1名の連絡を受けており、社員総会開始時における社員の出席者は27名で合計44名となり、全社員の過半数を満たしており、定款22条に基づき、定時社員総会は成立した旨が説明された。
- ・定款20条に従い議長は荒木理事長が務めることが説明された。

II. 議事録署名人選出

- ・理事定款第23条により、社員総会の議事録には議長と社員総会において選任された議事録署名人が記名押印または署名することと定められている。自薦・他薦はなかったため、議長より、新家 一輝氏と梶谷 みゆき氏の推薦があり、議事録署名人を務めることとなった。

III. 決議事項

- ・荒木理事長より、決議は、Zoomの投票機能を用いること、1号議案から4号議案までであるが、投票数の集計を円滑におこなうため、1議案ごとに決議を行うことの説明があった。

1号議案 2023年度決算報告および監査報告(資料1)

西垣理事より、2023年度の決算報告がされた。その後、石垣監事より、監査報告がされた。

- ・投票(Zoom)の結果、「1号議案 2023年度決算報告および監査報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成44票、反対0票となり、承認された。

2号議案 2023年度活動報告および事業報告(資料2)

池田理事より各委員会の活動報告があった。

・編集委員会:委員会の WEB 開催、機関誌(第 29 巻)発刊、学術集会での委員会企画、学会誌に対する問い合わせ対応、学術集会でのセッション開催、学会誌編集上の課題の検討、査読システムを新システムへ移行を行ったことが報告された。

・研究促進委員会:第 11 回家族看護学研究セミナー「二者関係データを用いて家族ユニットをとらえる研究をするための分析方法」開催、第 12 回家族看護学研究セミナー開催、第 9 回日本家族看護学研究奨励賞の授賞論文の選考および第 30 回学術集会内での表彰、JFN にアブストラクトの交換等の活動を行ったことが報告された。

・実践促進委員会:第 30 回学術集会内での委員会企画開催、家族支援専門看護師とのネットワークミーティングを行ったことが報告された。

・教育促進委員会:委員会の開催、第 30 回学術集会内での委員会企画開催、家族看護教育セミナーの開催、「家族看護実践力を伸ばす研修会計画立案に役立つ教育ツール」【現任教育版】の活用が開催されたことが報告された。

・国際交流委員会:諸外国との家族間学会とのネットワークの構築(International Family Nursing Association(IFNA)との連携強化、16th International Family Nursing Conference(アイルランド・ダブリン)での広報活動)、国際交流員会セミナーの開催、ニュースレターの発行、メールマガジンでの活動報告掲載、Small Group 活動支援、JARFN の英語版ウェブサイトの更新を行ったことが報告された。

・広報委員会:2 回の委員会開催、ホームページの更新(随時)、メールマガジンの発行(6 回)、ニュースレターの発行を行ったことが報告された。

・社会活動・政策委員会:看保連における活動、診療報酬上の加算要件への参画に向けた家族支援 CNS 活動の現状調査の検討を開始したことが報告された。

・災害対策委員会:会議の開催、災害対策委員会企画セミナーの開催、一般社団法人日本家族看護学会 寄附事業に関する規約(案)についての検討、トルコ・シリア地震 についての理事長メッセージの検討と学会ホームページでの公開および災害時の家族支援検討を行ったことが報告された。

・将来構想委員会:グランドデザインの検討、30 周年記念誌編纂の検討、評議員のための活動助成事業支援、家族支援専門看護師に対する診療報酬の検討を行ったことが報告された。

・選挙管理委員会:役員選挙スケジュールの検討および社員総会での告示、被選挙人に対し、メールにて選挙案内、役員選挙の実施、開票、選出を行ったことが報告された。

・総務委員会:学会事業の推進に関わる諸活動、委員会活動の補佐、社員総会・会員集会・理事会等の会議体の運営・統制、定款・内規・細則等・規定の整備および管理、学会事務局との連携(予算、会員管理等)、Covid-19 Project としてアンケート調査(量的調査)・質的調査①・質的調査②の実施、30 周年記念誌の編纂を行ったことが報告された。

・利益相反管理委員会:適切な利益相反管理のため、制定した指針および催促に沿った運営を開始した。

・投票(Zoom)の結果、「2号議案 2023 年度委員会事業報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成 44 票、反対 0 票となり、承認された。

3 号議案 2022~2023 年度 理事および監事の解任 (資料3)

・定款第 28 条および第 29 条により、理事及び監事の解任は、社員総会の決議事項となることが定められている。

・荒木理事長より、資料3に沿い2022～2023年度理事10名、指名理事2名、監事2名の解任について決議を行うことが説明された。

・投票(Zoom)の結果、「3号議案 2022～2023年度理事および監事の解任」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成44票、反対0票、となり承認された。

4号議案 2024～2025年度理事および監事の選任(資料4)

・荒木理事長より、2024年3月に実施した役員選挙により、定款25条に基づき、理事10名、監事2名が2024～2025年度の理事および監事として選出を行ったことが説明された。

・資料4に沿い2024～2025年度理事10名、監事2名の選任について決議を行うことが説明された。

・投票(Zoom)の結果、「4号議案 2024～2025年度理事および監事の選任」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成44票、反対0票、となり承認された。

IV. 報告事項

1. 委員会報告

1-1)2024年度活動計画

・佐藤理事(編集委員会)より、委員会の開催、学会誌第30巻の刊行、学会誌に関する問い合わせ対応、学術集会でのセッション開催、学会誌編集上の課題の検討が予定されていることが説明された。

・小林理事(研究促進委員会)より、第14回家族看護学研究セミナーの開催、第10回日本家族看護学会研究奨励賞受賞論文を選考および表彰、Journal of Family Nursing(JFN)とのアブストラクト交換を予定していることが説明された。

・藤井理事(実践促進委員会)より、家族支援CNS不在県での場面別家族看護研修(4回)の開催、家族支援専門看護師による「よろず相談」の開催、家族看護グッドプラクティスアワード2024の実施を予定していることが説明された。

・長戸理事(教育促進委員会)より、家族看護の教育ツールの活用促進・洗練化に関する活動、家族看護を学際的に学習する機会の提供、第31回学術集会での委員会企画の開催、家族看護の基礎教育の課題に関する活動の実施を予定していることが説明された。

・本田理事(国際交流委員会)より、諸外国の家族看護学学会・研究機関との交流・ネットワーク構築、会員向けの国際交流活動支援・情報提供、国際交流委員会セミナー、JARFNの英語版ウェブサイトの更新を予定していることが説明された。

・山崎理事(広報委員会)より、ホームページを通じた情報発信、年6回のメールマガジン、ニュースレターの発行を予定していることが説明された。

・浅野理事(社会活動・政策委員会)より、看護系学会等社会保険連合における活動、診療報酬上の加算要件への参画に向けた「家族支援専門看護師の活動に関する実態調査」の実施および報告、第31回学術集会で診療報酬上の加算要件への参画に向けた委員会合同企画の開催を予定していることが説明された。

・河原理事(災害対策委員会)より、国内外で発生している災害や紛争等に伴う理事長からのメッセージおよびこれまでの刊行物やセミナー等での取り組みをホームページへの掲載検討および実施、第31回学術集会でシンポジウム開催が予定されていることが説明された。

・井上理事(将来構想委員会)より、グランドデザインに基づいた委員会活動の確立、家族支援専門看護師に対

する診療報酬上の加算要件に向けた継続審議、評議員による活動助成事業の支援、家族看護グッドプラクティスアワード 2024 への支援を予定していることが説明された。

・井上理事(総務委員会)より、学会事業の推進に関わる諸活動・委員会活動の補佐、社員総会・会員集会・理事会等の会議体の運営および統制、新理事会運営の統制、定款・内規・細則等・規定の整備および管理、学会事務局との連携(予算、会員管理等)、Covid-19 調査の補佐を予定している事が説明された。なお、選挙管理委員会について次回の活動は 2025 年度となる旨が説明された。

1-2)日本家族看護学会グランドデザイン

・井上理事(将来構想委員会)より、日本家族看護学会グランドデザインについて資料 6 に基づき家族看護のイメージとしてデザイン化し、2024 年 4 月の理事会で合意を得られたことが説明された。

・荒木理事長より、本グランドデザインを次期体制の中で共有し、各活動を進めていきたい旨が説明された。また、30 周年記念誌の編纂について、上別府社員よりリーダーシップを取っていただくこと、石垣監事、鈴木社員、長門理事、池田理事を含む複数名の会員による参画が予定されていることが報告された。上別府社員より、挨拶があった。

・投票(Zoom)の結果、「3号議案 2023 年度予算・活動計画」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成 44 票、反対 0 票となり承認された。

・荒木理事長より、定款第 17 条・社員総会決議事項に次年度活動計画は含まれていないが、法人化し活動が活発化している現状を踏まえて、今回は議案に含め決議を行った旨が説明された。

1-2)日本家族看護学会グランドデザイン

・井上理事より、将来構想委員会を主幹として四つの委員会で、学会のグランドデザイン構築に向けての検討が行われていく旨が説明された。

・第 30 回学術集会の理事会企画にて草案の説明を行い、ワーキンググループ等で重点活動目標案等を作成、それに対して会員からパブリックコメントを募集し、2024 年度総会にてグランドデザインを提示予定であることが説明された。

2. 総務報告

2-1)2024 年予算

・西垣理事(会計担当理事)より、資料 7 に基づき、2024 年度予算案について説明があった。

2-2)会員・会費納入状況

・井上理事より、資料 8 に基づいて 2024 年 4 月 30 日現在の会員数は 1427 名、そのうち 615 名より 2024 年度の会費支払いがあったと報告された。

2-3)理事会報告

・井上理事より、資料 9 に基づいて 2023 年度は 5 回の定期理事会、3 回のみなし理事会、第 30 回学術集会にて会員集会を開催したことが報告された。

3. 第31、32 回学術集会の進捗

1)第 31 回学術集会報告(資料 10)

・井上理事より、資料 10 に基づいて、演題の受け付けが完了し、指定演題 12 題、一般演題 92 題、交流集会

23 題、委員会企画 6 題、オンデマンド 6 題が集まったことが報告された。

・プログラムには委員会企画のほか、家族会企画、市民公開講座、居合道パフォーマンスなどの企画が進行中であることが報告された。

・ポケットプログラムは 8 月に 30 周年記念誌と共に発送予定であることが説明された。

2) 第 32 回学術集会報告

・井上理事より、今野美紀集会長の代理で第 32 回学術集会についての報告が行われた。

・開催は 2025 年 9 月 20 日、21 日に札幌市内で行う予定であり、会場についてはまだ非公開としていることが報告された。

・学術集会のテーマは「家族看護はえんむすび」であることが報告された。

4. 第 33 回学術集會長の選任

・荒木理事長より、第 33 回の学術集會長について、下記の通り提案された。

第 33 回学術集會長:高知県立大学 看護学部看護学科 教授 瓜生 浩子 氏

・特に意見等はなかった為、瓜生浩子氏が第 33 回学術集會長として承認された。

V. 閉会の辞

・この総会をもって任期が終了となる理事よりひと言ずつ挨拶があった。その後、荒木理事長より閉会の挨拶があった。以上をもって定時総会の議案審議が終了したことが宣言され、閉会した。

2024 年 6 月 2 日

議長 荒木 暁子

議事録署名人 新家 一輝

議事録署名人 梶谷みゆき